

研修会（講演会）で学びました（8月24日）

演題『発達障害児の自立をめざす具体的な指導法』

講師 富山県立となみ東支援学校 五十嵐 勝義 氏



【講演の骨子】

【自立できるための「お手伝い」指導】

『家事手伝いと職場適応の相関が極めて高い』

➡ 『家庭でできるように学校で指導する！』

他に ・路線バスの指導

・生活技能支援ツールの考え方 等

【特別支援学校教師として必要なこと】

『教材作成力』 発達障害児童生徒の目標

・基礎学力 ・手指が使える力

『問題行動への対応力』 『般化・維持させる手法』

『幼児教育・通常学級の手法』

【リズムとテンポのある授業について】

『朝10分間の取組』 『毎日繰り返し』 等

【「輪郭漢字カード」の開発と指導】

【絵本の読み聞かせの手法】

等

感動しました！洗濯物干しや食器洗いがここまで般化できるなんて！アセスメントの大切さがわかりました

～参加者の声より～

「家の仕事は家庭まかせ」ではなく「学校で」行うことの大切さを納得！

「できない状態を具体的に」分析すること、その子に合った「スピード感」大事なことですね。

「般化」と「定着」が知的障害児童生徒の指導支援の難しさであり重要であることを日々痛感しています。

その具体的な方法を、沢山聞き勉強になりました！

できるようにするための教材作りとその視点が大変参考になった。教師の原点である「先生の熱意」も講演から伝わり元気がでた！

日頃、私たちは指示説明に言葉が多すぎると感じていました。指示説明と対話を混同しないように気をつけたいです。

「朝の会」うちの学級でも何かしてみよう！

「授業実践はリズムとテンポ」その通りの講演で、とても集中して話を聞くことができました